

2017年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

朝日ゼミ	
基本テーマ	今日の日本の労働環境の劣悪化に対して、その原因を探り、対策を検討します。
ゼミ運営方法	<ul style="list-style-type: none"> 今日の日本の労働環境は、非正規労働者の割合が4割を超え、労働者の4人に1人が年収200万円以下のワーキングプアになっているなど、職業の不安定化、職務内容の劣悪化、所得格差拡大、深刻な貧困化がすすんでいます。そのような労働市場を背景に、労働者を使いつぶすブラック企業が大量に発生しています。従来、安定的で有利な地位にあるといわれていた正社員が、継続雇用と引き替えに、ブラックな就業状況に甘んじる人にされつつあります。政府主導でおこなわれている「働き方改革」は、状況の改善どころか、むしろ徹底的な悪化を生み出す作用を持っていると広く指摘されています。 ゼミでは、このような事態が何故発生するのか、どうしたら解決の道が見えるのか、を検討します。 演習1では、入門段階として、経済学の基礎理論の学習し、同時に、ブラック企業についての知識を深めます。演習2では、応用段階として、ブラック企業を発生させる現代日本資本主義の構造問題を他国との比較でおこなっていきます。2年目の夏には、卒業論文のテーマ報告合宿をおこないます。卒業研究では、最終段階として、各自の研究発表を中心に卒業の完成に向けた検討をおこないます。 ゼミは、文献研究 報告と討論)を中心とするオーソドックスなものです。希望に応じたフィールドワークなども可能です。
就職指導の方針	就職対策合宿をおこなって朝日ゼミ就職術、進学の入門を学びます。個別の就職相談・進学相談に丁寧に対応しています。
卒論の要件	テーマは、文学作品や自然科学分野などの私が採点できない領域はテーマに選ばせませんが、それ以外の範囲なら基本的にOKです。分量は、図表を計算に含まず、文字数12,000字以上が要件です。例年、卒業年度の12月半ばには草稿を提出してもらい、それから、個別指導をしています。
学生への要望	現代の社会問題にしっかりと向かい合っ、その構造や動向を根本から学び、多くの人々のかかえる問題への解決の糸口を考えたいという学生を歓迎します。が、基本的には来る人拒まずという姿勢で臨んでいます。
その他	朝日ゼミは、キャンパスライフを大切にしたいと考えており、自治会などが主催するイベントに積極的に参加してきました。また、食事会を含むゼミ生の交流、合宿、旅行などにも積極的です。それぞれの企画 内容は、ゼミ生が話し合って決めます。積極的に学生生活に思い作りをしたい人に向いています。

内田ゼミ	
基本テーマ	<p>みんなと未来学をやりませんか</p> <p>将来、こんな世の中になっていたらいいな」をキーワードに、個人の生活や企業・産業、あるいは地域や社会が「将来こうなっていたらいいな」という未来の姿を自由に想像し、どうしたらそうなれるのか」を、学生のみなさんが議論し、考えていくゼミです。</p>
ゼミ運営方法	<p>既存の仕組みや社会のあり方が大きな曲がり角を迎え、新しい発想で未来の姿をデザインしていくニーズが高まっています。</p> <p>このゼミでは、学生のみなさんが自由に発想し、理想を語り、どうすればその理想に近づくことができるのかをみんなで議論し、考えていきます。みんなでワイワイ喋り、話し合いながら自分たちの考えを深めていくというのが基本的なゼミ運営方針です。</p> <p>学生のみなさんが自由に発想したアイデア(テーマ)について、さまざまな視点からみんなで議論をし、実現に近づぐために何が必要かを発見し、何をどうすればいいのかについてのアイデアを出し合い、そのアイデアを高めていくというのが、ゼミ活動の中心となります。</p> <p>特別な知識は必要ありません。テーマや実現策のアイデアを発想し、議論する過程で、みんなで文献や資料などをいろいろ調べていき、1人が調べた情報をみんなで共有しながら、また議論を続けていきます。</p> <p>アイデア(テーマ)の選定は、学生が話し合っで行います。ゼミの人数によっては、いくつかのグループに分かれて活動することもあるでしょう。その場合は、それぞれのグループが別のグループに対して、自分たちが取り組んでいる議論の内容を紹介する機会を設け、お互いの参考にしていきます。アイデアの実現に近づぐための方策を最終的にまとめたら、その内容をレジュメにまとめ、他のゼミ生に発表します。</p>
就職指導の方針	企業での経験をもとに、進路選択や就職活動のあらゆる場面で幅広くみなさんの相談相手になり、親身な指導を行います。
卒論の要件	テーマは、基本テーマに沿っていれば自由です。演習I・IIのゼミ活動で掘り下げて研究したテーマを卒論のテーマにしてもよいですし、卒論用に新しくテーマを設定しても構いません。グループで1つのテーマを設定し、共同執筆することも可です。分量はA4で10ページ以上(図表、イラスト等を含む)を目安としますが、テーマによってはこの目安に達しないことも考えられるため、その場合でも可とします。
学生への要望	<p>ゼミ活動は、学生のみなさん自身が主体的に企画し、行動していくものです。1年半のゼミ活動が楽しく、面白いものになるかどうかは、学生のみなさん次第です。</p> <p>研修旅行・合宿・学外調査活動などは、学生のみなさんが自主的に企画してください。指導教員はこうした活動をできる限り支援します。なお、これらの活動は自由参加です。演習・卒業研究の授業の成績には反映されません。</p>
その他	<p>ゼミ募集要項について、質問などがあれば、メールでの照会あるいは研究室(3号館411研究室)まで直接聞きに来て下さい。来室希望の人は、予めメールで日時の予約をしてもらえれば確実です。</p> <p>メールアドレス: uchidam@k-kentan.ac.jp (uchida の後に m)</p> <p>指導教員のプロフィールは、県短ホームページを参照して下さい。</p>

岡田ゼミ	
基本テーマ	日本全体の人口減少と大都市圏への人口移動が進む中で、地方創生が喫緊の課題となっております。これから自分が就職して住む地域も、同様な問題を抱えていることが多いでしょう。しかし、そこに住み続けるためには、地域の問題を見つけ、解決策を探り、住みたいまちづくりを意識しながら、仕事をすることが重要であると考えます。このゼミでは「地域活性化」を基本テーマとし、常に原因を追求し、自ら発想する力をつけることを目指します。
ゼミ運営方法	演習Ⅰでは基本テーマに沿った関心のある文献を各自で見つけて発表し、皆で議論します。これを踏まえて、春休みには希望者でフィールドワークを実施して地域の実態と課題を調査し、その結果をもとに皆で議論して解決策を提案します。演習Ⅱでは各自のオリジナルな発想で卒業研究のテーマを決める作業を行います。卒業研究では各自が決定したテーマに沿って、地域調査をし、地域の問題点を見つけ、有効な解決策を考えます。
就職指導の方針	どのような職種を希望する場合でも、可能な範囲で相談にのります。
卒論の要件	基本テーマに沿っていれば何でも構いません。 12,000字以上を要件とします。
学生への要望	ルールを守ること。 協調性をもつこと。 ゼミの時間は前向きに思考すること。
その他	興味があれば研究室 (3号館 2階)を訪ねるか、見かけたときに声を掛けて下さい。 連絡先 okada@k-kentan.ac.jp

岡村 俊)ゼミ	
基本テーマ	ゼミのテーマは「情報化を中心としたシステムと人間の関わり合い」です。コンピュータやネットワークを中心としたモノ、社会、システムが人間とどのように関わっているのが明らかにし、快適かつ効率的な(職業)生活をしていこうということです。簡単に言うと、「情報を活用することで、ラクして、いい仕事しよう」となります。 心理学やエコに関して学ぶこともありますが、あくまでも(働くことを含めた)人間の生活からの視点で考えていきます。 岡村(俊)はコンピュータの専門家でもあります。コンピュータをバリバリやりたいならこのゼミは1つの選択です。一方、「コンピュータは苦手」という学生が選択してもかまいません。どうして苦手なのか、コンピュータのどこが悪いのかを知ることができるかもしれません。
ゼミ運営方法	基本的に「演習1」と「演習2」は「卒業研究」に向けての準備だと考えます。卒業研究は「勉強」ではなく「研究」なので、世の中に役に立つ新しい事実を自ら発見することが望まれます。また、学習と実益を兼ねて、学内あちこちのIT環境改善(パソコンや周辺機器の設定とか)をゼミの中でやることもあります。 ゼミの運営は基本的に学生にまかせます。学生の運営を教員がサポートする、というのが理想です。工場見学など学外での活動も、できる限り学生の希望に応じていきたいと考えてます。
就職指導の方針	就職先、進路、書類の書き方など学生の希望に応じて、できる限りのアドバイスはします。こちらからなにか強制することはありませんが、たまに活動状況に関して確認することはあります。指導や助言はしますが、進路選択・就職活動はあくまでも学生自らの責任において行うものであると考えています。
卒論の要件	ゼミのテーマから大きく外れなければ、内容、字数ともに自由です。動画などのデジタルデータでもかまいません。各自のテーマは演習を進める中で自分で決めていくこととなります。内容によっては複数名での執筆も可とします。内容に応じて、実地調査やアンケート調査、実験なども含めることもあります。
学生への要望	自分の考えを持つと同時に、その考えを表現する(相手に伝える)ことを望みます。基本的にゼミ生を自立した「おとな」として扱います。「おとな」になれない学生は、さくっと見捨てるかもしれません。
その他	何か質問があれば、okamura@biz-kpc.netにメールをするか、研究室(2号館1階)を訪ねてください。

2017年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

岡村 雄)ゼミ	
基本テーマ	<p>会計を実践的に学ぶ 会計は「事業の言語」といわれています。企業の内外の人々がコミュニケーションの手段として会計を利用しているからです。言い換えれば、ある状況における問題の発見、認識、そして解決方法を議論する際に、会計言語は必要不可欠な知識といえます。 本演習は、ゲーム、模擬店経営、企業調査等のフィールドワークを通して、とかく難しく考えられがちな簿記 会計を実践的に習得することを目指します。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習Ⅰ：テキストの輪読と模擬店経営による予算・記帳・決算の実践 演習Ⅱ：テキストの輪読と企業調査をふまえて卒業研究の計画をたてる 卒業研究：計画にしたがって調査・分析し、成果を卒業論文としてまとめる</p> <p>簿記検定前には答練会をします。また、長期休暇には合宿や調査旅行が企画されます。</p>
就職指導の方針	履歴書、エントリーシートの添削等、できる範囲で指導します。
卒論の要件	<p>研究対象：基本テーマの範囲 字数制限：なし</p>
学生への要望	<p>気持ちの良いあいさつを心がけてください 合宿 旅行を企画できる学生を歓迎</p>
その他	興味がある方は研究室 3号館4階)を訪ねてください。演習Ⅱの見学も歓迎します。

倉重ゼミ	
基本テーマ	<p>このゼミでは、「効率化」をキーワードとするコンピュータを用いた意思決定について学んでいきます。ここでコンピュータを用いるとは、プログラミングを行ったり、エクセルをちょっと高度に利用してみたり、特殊なソフトを使うことです。皆さんも普段の生活の中で「もう少しこうしたら、こうなったら、もっと効率的になるのに」とか思ったことはありませんか？それをモデル化し、その解決方法を考えていきます。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習ⅠとⅡでは、エクセルを利用したプログラミングやデータ解析、シミュレーションなどを学んでいきますが、それ以外にも人前で話すことや思考力を養う課題にも取り組んでもらいます。また、最初のうちは教員主体で行いますが、慣れてくれば学生主体での運営を考えています。 卒業研究では、基本的に自分が興味を持てるテーマで卒論を書いてもらいます。</p>
就職指導の方針	<p>私に「できる範囲内」でのお手伝いはさせていただきます。特に間接的な就活支援になりますが、SPIの非言語処理問題やPC検定への質問・相談は歓迎します。また、面接練習用にビデオカメラなども準備しています。これらは希望する学生さんのみを対象にするもので、こちらから無理強いすることはありません。</p>
卒論の要件	<p>テーマなどは自由で、複数名で取り組むことも可能とします。分量に関しては、その内容によります。</p>
学生への要望	<p>少なくとも現段階でプログラミングなどコンピュータを扱うことに関心があること 経験はまったく問いません。 チームでの活動を基本とするので、最低限度の協調性は必要かと思います。 後期開講予定の統計学は受講してください。</p>
その他	<p>このゼミは、以下のような人が向いている気がします。 ・将来、情報関連分野に就職を考えている人はもちろんですが、ワンランク上のエクセル使用を目指す人。 ・難関中学の算数の入試問題に対して、コーヒー片手に仲間と相談しながら楽し(取り組める)人。時間がかかったり、解けなくてもかまいません。とにかく楽しむ人です。</p>

瀬口ゼミ	
基本テーマ	<p>ゼミのテーマは、「企業と市場」、「企業間競争」、「企業と社会」などについて考察することです。</p> <p>私の研究テーマは、「多国籍企業における市場戦略」ですが、それに縛られる必要はありません。経営学やマーケティング論などに少しでも興味があれば歓迎します。具体的には、企業間でどのような競争が展開されているか、なぜ売れる商品と売れない商品があるのか、企業は社会に対してどのような影響を与えるのか、などについて考えていきます。</p> <p>詳細についてはメンバーの要望を聞いてから決定しますが、マーケティング論、ブランド論、多国籍企業論、経営戦略論、企業の社会的責任論（CSR論）、文化産業論、消費社会論、のいずれかが中心になります。このような分野に興味がある学生さんにおすすめします。</p> <p>過去の卒業生の多くは、卒論のテーマとして、「ディズニーリゾート」、「ユニクロ」、「ルイ・ヴィトン」、「アニメ産業」、「R-POP」、「健康食品産業」など、自分が興味を持っている具体的な企業や産業を取り上げました。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習1では、ゼミ生の希望を聞きながら、以下の2つの方法から選択する予定です。</p> <p>(1)ゼミで共通の本を決め、輪読を行う。</p> <p>(2)各自で興味のある本を1冊選択し、交替で発表する。</p> <p>いずれの場合も、以下の手順で進めていきます。</p> <p>①文献を決定し、担当者を割り振る。</p> <p>②担当者は、自分の担当箇所をレジュメにまとめ、当日ゼミに配布する。</p> <p>③報告する際は、レジュメに基づきながら担当した箇所の内容をゼミ員に説明し、論点を提示する。</p> <p>④他のゼミ員は、報告者への質疑や提示された論点について意見を述べる。</p> <p>演習2では、演習1での学習状況を見極めながら、応用文献の発表または卒業研究に向けたテーマ設定などを行う予定です。</p> <p>卒業研究では、卒業論文の執筆がメインになります。各自のテーマに基づき、研究内容や進捗状況などを随時報告してもらいます。</p> <p>学内開放（卒祭）への参加、工場見学などのゼミ旅行、食事会、等の活動を行いたいと考えていますので、このような活動に積極的に取り組みたい学生さんの応募を待っています。ただし、こちらから無理に計画することはありません。皆さんから自分たちの希望を私に伝えて欲しいと思います。</p>
就職指導の方針	<p>希望者に対して、企業研究、履歴書の書き方、面接対策などを出来る範囲でお手伝いします。ゼミ以外の時間でも、希望があれば時間を取って、個別に相談に乗るつもりです。</p> <p>また、就職活動に必要なとされる能力（論理的に考える、自分の考えを持つ、自分の考えを相手にはっきりと伝える、相手の話を聞く、質問の意図を読み取る、など）は、ゼミ活動のなかでも養成できると考えます。したがって、普段のゼミ活動においても、就職活動直前になって困らないよう、前述した能力を身に付けられるよう指導していきます。</p>
卒論の要件	<p>卒論のテーマは、私が指導可能な分野であれば、何でも構いません。</p> <p>テーマ設定や書き方などについては、ゼミのなかで具体的に指導していきます。文字数は、12,000字以上を予定しています。</p>
学生への要望	<p>現時点での知識や能力などは一切問いません。また、一人ひとり忙しさを入れていることが異なるでしょうから、ゼミ中心の生活を望むこととはしません。</p> <p>しかしながら、ゼミに参加し、ともに学ぶにあたって、以下の点を守ってもらいたいと思います。</p> <p>特別な理由が無い限り、欠席をしないこと。欠席する際は必ず事前に連絡をし、無断欠席をしないこと。</p> <p>ゼミのテーマや本について決める際に自分の希望が叶わなくても、決まった以上は一生懸命取り組むこと。</p> <p>自分が担当すること（担当する章の報告など）には責任を持つこと。</p> <p>自分が担当する章でなくても、きちんと文献を読み質問を考えてくること。</p> <p>黙っていても何かして「くれる」のではなく、自分たちでゼミをつくっていく気持ちを持つこと。</p>
その他	<p>ゼミについて質問があれば、seguchi@k-kentan.ac.jpまでメールしてください。</p>

宗田ゼミ	
基本テーマ	<p>【基本テーマ】鹿児島県内の中小企業を対象とした事例研究」</p> <p>【概要】鹿児島県内の中小企業を対象として経営分析を行います。</p> <p>演習Ⅰ 簿記論Ⅰ相当の学修を前提として会計学・経営分析の基礎を学ぶ。</p> <p>演習Ⅱ 事例研究の方法論について学ぶ</p> <p>卒業研究：演習ⅠおよびⅡにおける学修をもとに卒業論文の作成を目指します。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習Ⅰでは、経営学の基礎、会計学の基礎、経営分析の先行研究のレビューを通じて、卒業研究で求められる研究の基礎能力を身につけていただきます。</p> <p>演習Ⅱでは、事例研究の方法論について学びながら、簡単なケーススタディを繰り返します。</p> <p>卒業研究では、演習Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎として卒業論文の作成に取り組みます。</p> <p>なお、ゼミで共通の書籍を決めて輪読したり、自分で選んだ書籍等を基にしたレポート作成や資料作成なども行います。さらに、可能な限り、フィールドワーク（企業訪問等）も実施したいと考えています。</p> <p>ゼミ運営の基本方針は以下の通りです。</p> <p>勉強の方法を学ぶ、知識・技術の習得、交流と協調、よく遊び、よく学ぶ」</p>
就職指導の方針	<p>毎年お断りしているのは、履歴書やエントリーシートの代筆、面接等での替え玉受験です。これら以外は、皆さんからのリクエストに可能な限りお答えします。具体的には、エントリーシートの記入・履歴書作成時のアドバイス、模擬面接の練習相手などです。</p>
卒論の要件	<p>基本テーマに従って、卒業論文を作成していただきます。</p> <p>字数制限は特にありません。詳細なテーマ等は過去の学生論集を参照してください。</p>
学生への要望	<p>私のゼミを希望する学生は、事前に研究室を訪問するなどして、私と直接話をしてください。希望者が多かった場合は、非訪問者からご遠慮いただく予定です。</p> <p>現在の知識や技術ではなく、次のような学生の参加を望んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶をしたり、時間を守ったりするなど、ルールやマナーを守ることができる学生。 勉強に限らず、自らの目標もしくは目的に向けて学生生活を送っている学生。 サークルや自治会活動、大学イベントなどに積極的に参加される学生。 ゼミに入った場合、私の担当する科目（財務会計論、コンピュータ会計など）を履修していただけると幸いです（強制はしませんが希望します。）

その他	<p>【担当者自己PR】 担当者のプロフィール等に関しては、宗田健一会計研究室のホームページ (http://sota.labo.ac)で確認してください。</p> <p>連絡先アドレス :sota@k-kentan.ac.jp</p> <p>研究室訪問可能日時 現在の予定につき、会議等で不在の場合は再訪してください。この日 時であれば、事前のアポイント無しで訪問していただいて結構です。)</p> <p>6月28日 水), 17時30分～19時30分 6月29日 木), 13時～17時 6月30日 金), 13時～16時 7月5日 水), 10時30分～12時, 13時～15時30分</p>
-----	---

2017年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

竹中ゼミ	
基本テーマ	<p>テーマとしては、「企業と人との良好な関係について考える」とします。 企業と関わり合いを持って生活しなければいけない私たち。 企業とつき合うなら、うまくつきあっていく方がよい。 うまくつきあっていくために、知っておいた方がよいことは何か、考えてみましょう。 当初は、テキストとして「即効マネジメント 海老原嗣夫著」を取り上げるつもりですが、ゼミの当初の内容は、実際に参加するゼミのメンバーで、テーマについて一緒に確定するという話し合いを行っていききたいとも考えています。 その際には、できるだけ参加する人が興味を持てるテーマを選んでいきたいと思っています。</p>
ゼミ運営方法	<p>ゼミは、基本的には学生が中心になって活動するものです。日頃のゼミは、与えられたテーマを分担して、決められた発表者が作成したレジメ(その日の発表内容をまとめたもの)を材料にして、みんなで議論するという方式でゼミを進めていきます。 また、いろいろな事件や出来事が起これば、それについても議論をしていこうと考えています。 ゼミ合宿や工場見学等はこれまであまり実施していませんが、皆さんの要望があれば考えていきます。</p>
就職指導の方針	<p>就職は皆さんにとっての大きなテーマです。できるだけサポートはしていきたいと考えています。履歴書作成や志望動機、自己PRなどのように書けばよいかについては、アドバイスしてきました。また、具体的な求人情報は学生課にありますので、そこの連携も必要です。 ただ、就職活動は精神的なタフさが要求されることもあり、就職活動に対する意欲がわからないなど、根本的な問題に直面することも多くあります。そのような場合、どのようにしたらいいか簡単に答えは出せないのですが、一緒に考えていくことができればいいと考えています。</p>
卒論の要件	<p>卒論については、特別な条件は設けませんが、字数については、目安としてA4用紙10枚程度が必要です。テーマについては、必ずしもゼミで取り上げたテーマでなくても構いません。自分で関心があるテーマが見つければ、それについてじっくりまとめてくれればOKです。2年生の演習2の時期に、相談しながらテーマや方法を決めていきたいと考えています。</p>
学生への要望	<p>ゼミは少人数で運営されるので、一人一人の発言や学生自身が作成するレジメが大切になってきます。そのためには、それぞれの人が何を考えているのか、言葉や文字にして他の人に伝えていくことが必要になります。また伝える方法にまだ慣れていなければ、それを練習していかなければ上手にはなれません。このようなことを理解してくれる学生を望みます。</p>
その他	<p>何かゼミについて質問があれば、takenaka@k-kentan.ac.jpまでメールで連絡、もしくは直接質問してください。</p>

野村ゼミ	
基本テーマ	<p>ものづくり組織進化論～新興国の急成長とトヨタの適応～ ～アジアの現地で考えてみよう～</p>
ゼミ運営方法	<p>・『トヨタ快進撃の秘密』をテキストに、「人工知能を活用した自動運転→無人運転」、燃料電池、新興国での生産」などに適応するトヨタの最新の姿を学びます。 『モノが売れる秘密は お客様のニーズを創造する』プロダクトアウトと、お客様のニーズに対応するマーケットインの二つのアプローチがあります。このうち、マーケットインに焦点を当てて、主な新興国市場のうちアジアの国々(タイ、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナム、台湾、インド、パキスタン、希望があればアジア以外の南アフリカ、アルゼンチン等)の現地を実際に訪問して考えます。 ・アジアの国々の現地訪問はLCCとAirB&B等を活用すれば5カ国3週間程度でも25万円程度(航空券+宿泊費+現地行動費の合計)で可能です。プランを練りに練って、工夫に工夫を重ねた手配を行えば20万円を切れると思います。訪問先をタイ、インドネシアの2カ国に絞れば1週間合計5万円以下も夢ではありません。儲かる秘密はコストの安い新興国で現地生産することにもありますので、新興国の「安さ」を実感してもらえればと思います。 ・現地調査は1年生の3月に実施することが多いです。近年では、行先別に複数のグループに分けて実施しています。 ・野村ゼミでは、例年、この海外調査をゼミ生が自分達で企画し、手配(予約)して、自分達だけ(先生の引率なし)で実施してきました。これまで20年ほどの間、ほぼ毎年実施し、累計300人以上が参加し、病氣、事故ともになく無事に終えることができました。 ・海外調査への参加は任意(義務ではない)ですが、参加する意欲がある人を歓迎します。</p>
就職指導の方針	<p>ゼミの卒業生が県内の主な企業にいますので、志望企業別に卒業生と相談しながら進めていきます。</p>
卒論の要件	<p>コピーでなく、自分で調べたこと、自分で考えたことを写真、図表を含めてA4で15枚程度書くこと。卒論の要件はこれだけです。</p>
学生への要望	<p>学生時代に一生忘れられない思い出を創る、そんな夢を持ってほしいと思います。ゼミ活動を通じて自分の人生を語り、成長する私に進化してもらえればと思います。</p>
その他	

疋田ゼミ	
基本テーマ	<p>テーマ 明治維新150周年に鹿児島地域史を学ぶ】 明治維新から150年ということで、鹿児島が輩出した偉人たちを通して鹿児島の郷土史を学ぶ機会が増えています。今年の疋田ゼミは、その偉人たちの時代の暮らしや慣習、経済活動や地方政治を通して、鹿児島の地域史を研究します。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習Ⅰでは、鹿児島の地域史に関するテキストを一冊読み、地域史の視点や方法論を学びます。論文の形式や参考文献の引用ルール、論の展開方法などを学ぶと同時に、テキストの章の報告を担当者を決めて報告してもらい、レジュメの作成・プレゼンテーション力をつけることが目標です。 演習Ⅱでは、卒業論文の対象にしようと思う地域を具体的に決めて、地域に関する情報を調査します。文献だけでなく、インタビューなども含め、現地調査を行う機会をできるだけ作りたいと思います。演習Ⅱを基礎にして、「卒業研究」を行います。 以上、演習の流れに沿った課題は疋田が設定しますが、聞き取り調査やリクレーションなど、ゼミナールを楽しむための工夫は学生に主導してもらいます。</p>
就職指導の方針	<p>編入試験も含め、自己PRや志望動機、面接へのアドバイス、履歴書添削などのサポートは最大限行っていきます。</p>
卒論の要件	<p>12000字以上でテーマは「鹿児島の地域史」という大枠の中で自由に設定してください。卒業研究が始まるまでに、興味のあること、探求したいテーマを見つけ、納得がいくものを是非書いてください。論文の様式、書き方について指導、添削します。</p>
学生への要望	<p>講義ではなくゼミナールなので、他人の話を聞き、自分の思いを自分の言葉で語れる人、あるいは、そうありたいと思っている人に来てほしいです。特に、ゼミの欠席などについてはちゃんと連絡をするなど、最低限のマナーは守ってほしい。 それと、ゼミの時はゼミのテーマに真剣に取り組む、遊ぶ時は思いっきり楽しむ、というメリハリをつけられる人。あるいは、そうありたいと思っている人を希望します。</p>
その他	<p>疋田ゼミについてもう少し知りたいと思う人は研究室 3号館4階)を訪ねてください。ただし、メールで k.kita@k-kentan.ac.jp) アポをとってから。またメールでの質問も受け付けません。</p>

福田ゼミ	
基本テーマ	<p>国際社会に生起する様々な事象 紛争、開発、市民社会論など)について、国際関係論的な視点から分析していきます。ニュースなどについて自分なりの意見をもてることを最終的な目標とします。 同時に、自分たちが住む鹿児島について自分たちの足で調べていることも大きな柱にしたいと思えます。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習1では、新聞の社説の読み比べをして、社会の様々な問題に対してどのような意見があるのかを見たいと思います。そしてその問題について議論したり、レポートを作成してもらいます。 演習2では、国際関係論に関する基本的な文献の輪読をして、順番に報告してもらいます。同時に、順番を決めて毎週新聞記事についての報告をしてもらいます。演習2の途中から各自の興味のあるテーマについてまとめてもらいます。卒業研究では、各自の卒論のテーマについて報告してもらおう予定です。 課外活動 参加は任意で成績には関係ありません) 昨年度は与論島にフェリーで行って、マンゴー農家さんや県庁の職員に対してアボカド栽培の魅力をプレゼンしてきました。 また一昨年度までは、商店街グルメグランプリの枕崎チームのお手伝いに、枕崎、鹿児島アリーナ、国分に行ってきました。枕崎チームは準グランプリでした。 今年もこうした課外活動を行いたいと思います。</p>
就職指導の方針	<p>小手先の面接技術などを習得するよりも、学生時代にしかできない体験、他の人と違った経験をすることを勧めます。</p>
卒論の要件	<p>基本テーマ)に関するテーマについての卒業論文を執筆してもらいます。分量は、1万2千～1万5千字程度。</p>
学生への要望	<p>自分で考えて、自分で行動していこうというタイプの積極的な方を歓迎します。 遅刻や欠席などをしないなど、あたりまえのことをあたりまえに行える学生を希望します。 例年、福田ゼミには、一人で行ってくる学生がほとんどです。希望する学生は、怖がらずに一人で希望してください。逆に、「友達が入るから入る」という学生にはハードなゼミになるようです。</p>
その他	<p>何か質問があれば、fukuda@k-kentan.ac.jpまでご連絡ください。直接研究室に来てもらっても構いません。</p>

2017年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

船津ゼミ	
基本テーマ	<p>経済 社会を洞察する力を養うことが基本テーマです。そして、その力を活用して、自分自身でテーマを見つけ、それについて調べ、調べたことを総合して論理的に考え、自分の調べたことや考えたことを説得力のある形で人に伝えられるようになることを目指します。卒業論文がその締めくくりとなります。卒業論文のテーマは社会に関するものであれば基本的に自由です。僕の専門は財政学、地方財政論で、国際経済 社会に関することも研究テーマにしていますので、経済関連だけでなく、政治や社会問題に関することでも、また日本や国内の地域はもちろん外国や国際経済 社会を対象にしたテーマでも構いません。</p>
ゼミ運営方法	<p>基本テーマで書いたことを実現するために、本を読めるようになることと議論できるようになることを重視して運営します。そして、1年半単位ではなく、半期ごとに成果が実感できるゼミにしたいと思います。演習1では、まず、全員で共通の本を読みつつ、報告者が担当部分を報告し、みんなで議論するか、ゼミ生がそれぞれ自分で本を選び(難しすぎたり、簡単すぎたりしないよう、僕が相談に乗ります)、その本の一部(1章が目安)について報告者が報告し、みんなで議論するか、どちらかをベースにし、その上で、1ヶ月か2ヶ月に1度ディベート(討論)を行いたいと思います。ゼミ生の数が少ない場合、ディベートは難しいですし、報告の負担が過大にならないよう、担当者に外国の通信社の日本語のサイトからニュースを4つくらいピックアップしてもらって、僕がそれについて解説し、みんなで議論することも時々行いたいと思います。</p>
就職指導の方針	<p>就活のためにゼミ生に義務的に何かをさせるといったことは考えておらず、ゼミ生の要望に沿って、ゼミ生を手伝うというのが基本です。具体的には、履歴書を書く時に相談に乗ったり、添削したり、面接の練習相手をしてアドバイスしたり、進学志望の学生の場合には、勉強方法についてアドバイスしたり、勉強会のような形で分からないこと等の質問に答えたりといったことをしています。</p>
卒論の要件	<p>分量としては、400字×20枚以上が一応の目安です。テーマは、前述のように社会に関するものであれば基本的に自由です。過去の卒論のテーマには、鹿児島県財政、鹿児島県内の市町村合併(薩摩川内市、南九州市等)、地域経済の活性化(出水市の企業誘致、「さんふらわあ」の影響、天文館の活性化等)、雇用 労働(アルバイト雇用、派遣労働、高齢者雇用、外国人労働者、女性の就業率、奄美市の雇用)、観光(鹿児島県と熊本県や福岡県との比較、霧島等のジオパークの比較等)、地域防災計画(鹿児島市と宮崎市の比較)、テレビCMと企業の売上の関係性、企業の経営分析(路線バス、ブランド戦略、コンビニ間の比較、ユニクロの分析、楽天とアマゾンの比較)、スポーツ(日本のプロ野球球団、野球の独立リーグ、日本女子サッカーの分析)、NPOと行政の協働、ロンドンオリンピックから見る東京オリンピック等がありました。</p>
学生への要望	<p>現在の知識の量、勉強や読書の得意、不得意といったことは全く問いません。また、ゼミの議論では積極的に発言してもらいたいと思いますが、良いこと、賢そうなこと、感心してもらえそうなことを言おうとする必要は全くありません。しゃべることが得意でなくても構いませんから、自分が感じたこと、考えたことを素直に、出来るだけ分かりやすく伝えようとしてもらえれば十分です。そして、そうしやすいゼミを運営するつもりです。</p>
その他	<p>僕に実際に会ったり、話してゼミ選択の判断材料にしたいという方は遠慮なくお願いします。他の仕事等と重なる可能性もありますので、メールでアポイントメントをとってもらうのが確実だと思います。数人一緒に大丈夫ですので、気楽に声をかけてください。来室時には軽くクックして、〇〇(自分の名前)です」と呼びかけてもらえると助かります。</p>
山口ゼミ	
基本テーマ	<p>日本経済の「失われた20年」を克服するために―若者が希望をもてる経済の仕組みを考える</p> <p>この20年というものは、日本ではずっと「改革」が終わらないブームとなっています。痛みには耐えなければ、既得権益を打破しなければ、岩盤規制を突破しなければ、日本経済は再び成長することはできないと言われてきました。人間にたとえるなら、深刻な病気だから大手術をしなければならぬと手術をしてもらい続けられ続けているようなものです。それでもこの間、雇用者数は増加してきているにもかかわらず正規は大きく減少し、日本人の給与水準は20年前より減少しています。このような背景のせいにかいまの20～30代の若者の多くは、進路選択の際にも就職してからもどこか閉塞感を抱えたまま過ごしてきました。このゼミでは、こうした現状をまずは冷静に分析し、その上でどのようにして克服できるのかを考えていきたいと思います。方向性としては、「若者を育てる企業の取り組み」、「テクノロジーと社会」技術発展は社会を良い方向に変えていく、世界のなかの「ミレニアル世代」(ミレニアル世代とは1980～2000年頃に生まれた世代で、世界的に環境や格差・貧困といった社会問題への関心が高い人が多く、その起業活動や社会活動が注目されている)といったものを中心に、ゼミ生の関心にしたがって決めていきます。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習1では、日本経済の現状分析を中心に毎週文献の輪読を行います。演習2では、基本テーマのところで挙げたものを中心に方向性を決め、その分野の専門文献の輪読を行います。卒業研究では、各自自分のテーマを決めて研究を進め、研究報告を中心としたゼミ運営を行います。</p> <p>また、1年生の春休みを利用した国内外への調査旅行や、2年生の夏休みには卒業テーマを決めるための合宿などを行なう予定です。その他希望があれば企業見学なども随時企画します。ゼミ懇親会などの親睦企画は学生の希望に応じて実施します。</p>
就職指導の方針	<p>就職指導の実績がないので、わからないことは多いかもしれません。しかしもちろん相談には乗ります。私にわからないことであれば私自身他の人の助けを借りるなど、力になれるよう努力します。</p>
卒論の要件	<p>テーマは指導の中で相談して決めていきます。字数は12000字以上とします。</p>
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・無断欠席をしないようにしてください。 ・ゼミの企画、調査旅行、合宿などには基本的に参加することが望ましいですが、金銭面その他不安がある場合は事前に相談してください。 ・個性を大事にしてください。 ・自分を大事にしてください。
その他	<p>メールでの連絡はyam aguch@k-kentan.ac.jpまで。研究室は3号館2階です。</p>

山本ゼミ

基本テーマ	<p>今年のゼミの研究テーマは、「観光行政」及び「地方分権改革」です。前半は「観光行政」について取り組みます。「観光客にとって、魅力的な都市は何か」という視点から、「都市ブランドの確立」、「ホスピタリティーの育成」等の観光振興のための施策について、実際の成功例を参考にして検討していきます。後半は、「地方分権時代における地方行政」のあり方について検証します。最初に地方自治体の役割に関する基本的事項を学んだ上で、フィールドワークを通じて「地方分権」はどうあるべきか、鹿児島の未来像に関して考察していくことにします。</p>
ゼミ運営方法	<p>通常のゼミではテキストを使って担当者に順番に報告してもらい、全員で議論する従来のゼミ形式を基本とします。それに加えて、フィールドワークを実施します。また、学内開放等の本学の行事にはゼミ単位で参加します。ゼミ旅行(任意)は、海外(費用は20万円程度)あるいは国内(費用は6万円程度)に行く予定で、世界や日本の歴史・文化を学びます。</p>
就職指導の方針	<p>山本ゼミのOGに就活体験記を話してもらうことを予定しています。学生からの要望があれば、面接指導を行います。</p>
卒論の要件	<p>卒論のテーマは自由ですが、1万5千字以上を条件とします。</p>
学生への要望	<p>まじめかつ素直で文句を言わず頑張れる学生、行事に積極的に参加できる学生が合っています。なお、山本ゼミでは世界の料理を食べる食事会をします。世界の料理に興味がある学生にはオススメです。</p>
その他	<p>質問がある人は、yamamoto@k-kentan.ac.jpまでメールをください。</p>